

現場代理人		監督員		係長		課長	
-------	--	-----	--	----	--	----	--

平成 年度 起工第 - - 号 事業

〇〇地区治山工事(山腹工)
福岡県〇〇市・郡〇〇町・村字〇〇地内

平成 年 月 日

施 工 計 画 書

請 負 者

印

1- (1)

施 工 計 画 書

(1) 事業名 平成 年度 事業

(2) 工事場所 福岡県 市・郡 町大字 字 地内

(3) 工期 自 平成 年 月 日 至 平成 年 月 日 日間

(4) 工事内容

工 種	種 別	数 量	単位	摘 要
のり切工	のり切工		m ³	
	残土処理		m ³	
法枠工	簡易法枠工		m ²	H=〇〇
	現場吹付法枠工		m ²	ラス張り
	現場吹付法枠工		m	法枠〇〇×〇〇
	現場吹付法枠工		m ²	枠内吹付
モルタル吹付工	モルタル吹付工		m ²	吹付厚〇cm
植生工	植生基材吹付工		m ²	
	植生マット工		m ²	
	繊維ネット工		m ²	
暗渠工	集水ボーリング		m	
	暗渠排水管		m	
アンカー工	受圧板(鋼製)		基	
	受圧板(コンクリート)		m ³	
	足場工		空m ³	
	削孔工		m	
	グラウト注入打設		m ³	
地質試験費	ボーリング調査		m	
基本試験費	アンカー工		箇所	
治山付属施設工	治山用銘板		枚	
工事標識美装化費	木製工事用看板枠(大)		基	
	木製工事用看板枠(小)		基	

現 場 組 織 表

現場代理人
氏名 〇〇 〇〇

施 工 管 理
主任技術者 〇〇 〇〇
工程管理者 〇〇 〇〇
出来形管理者 〇〇 〇〇
品質管理者 〇〇 〇〇
写真管理者 〇〇 〇〇
測量管理者 〇〇 〇〇
重機管理者 〇〇 〇〇

安 全 管 理
主任技術者 〇〇 〇〇
火薬管理者 〇〇 〇〇

事 務 管 理
事務管理者 〇〇 〇〇

協 力 会 社

会 社 名	工 種	責任者氏名
(株)〇〇組	土工	〇〇 〇〇
〇〇産業(株)	法枠工、植生工	〇〇 〇〇
(株)〇〇〇〇	アンカー工	〇〇 〇〇
(有)〇〇建設	足場工	〇〇 〇〇
(有)〇〇圧送	ポンプ打設	〇〇 〇〇
〇〇森林組合	伐採工	〇〇 〇〇

主要資材一覽表

[illegible]

主要資材一覽表

[illegible]

注 銅材類については、ミルシート、一般材は材料試験表、アスファルト類は試験成績表を添付する。

主要機械一覽表

工 種	名 称	規 格	使用目的	数 量	適 用
土工	バックホウ	0.7m ³ 級	掘削、埋戻し	1	
		0.7m ³ 級	掘削、埋戻し	1	クレーン機能付き
		0.45m ³ 級	掘削、埋戻し	2	
		0.45m ³ 級	掘削、埋戻し	1	クレーン機能付き
		0.25m ³ 級	掘削、埋戻し	1	
	ダンプトラック	10t	残土運搬	2	
	ダンプトラック	4t	残土運搬	2	
法面工	吹付機		法枠吹付 植生基材吹付	1	
	コンプレッサー		法枠吹付 植生基材吹付	1	
	発電機		法枠吹付 植生基材吹付	2	
	タイヤショベル	0.4m ³	材料運搬	1	
	バックホウ	0.15m ³	材料運搬	1	クレーン機能付き
土留工	コンクリートポンプ車		コンクリート打設	1	
アンカー工	削孔機		削孔	1	
	コンプレッサー		削孔	1	
	発電機		削孔・注入	1	
	油圧ジャッキ		緊張・定着	1	
	ラフタークレーン		資材運搬	1	

主要機械一覽表

[illegible]

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
準 備 工	準 備	・工事着手に先立ち、地権者、地域住民及びその他関係者との連絡協議等を行い、工事が円滑に進められるようにする。	
		・現場出入口及び現場までの主要箇所にて工事看板を設置し、第三者に対して工事中であることを周知する。	
		・現場近くに現場事務所、仮設トイレを設置し、安全旗及び工事関係標識等を掲示する。	
	伐 採	・立木伐採範囲について、地権者と立会し、用地・立木処理について確認の上承諾を得て伐採を行う。	
		・伐採した立木・枝条は、適切な場所に片付ける。	
		・チェーンソーによる伐倒作業は必ず有資格者が行う。	
	起工測量	・立木伐採完了後、設計図書に基づき、本BM・中心線・法線・縦断・横断・方向等の測量を行い、測量結果を監督員に報告し、設計図書と差異が生じた場合は監督員と協議し、指示を受ける。	
		・引照点の逃げ杭は、できるだけ基準点を囲むように設置し、障害物等により囲む事が困難な場合は、基準点の延長線上に設置する。	
仮 設 工	昇降設備	・法面作業を安全に行うため、親綱は立木等の強固な箇所2点以上に結びつけ、安全ブロック方式の採用など、安全帯の使用が出来る設備を設ける。	
		・単管手摺を設置する場合は、高さ90cm以上とし、中柵を取り付ける。また、トラロープ・カラーコーン・バリケード等の場合は法肩から〇m以上離して設置する。	
		・昇降階段の手摺には中柵を取り付け、移動・転倒がないように上下を堅固に固定する。	
	防護柵	・単管クランプを用いて1.2mの単管を設置し、金網又はネット張りにて転落・落石防止の措置をする。	
土 工	のり切工	・施工に先立ち斜面の状態、地表水の有無等について確認し、異常が見られた場合は監督員に報告し協議を行う。	
		・位置・方向の測量を実施し、丁張りを設置後、監督員の確認を受ける。	
		・バックホウ〇m ³ を用いて所定の勾配で掘削を行い、面仕上げにて整形する。	
		・掘削中に著しい土質の変化や湧水等が見られた場合は、監督員に報告し指示を受ける。	
		・施工期間中の降雨時には法面崩壊対策として、シート等で養生を行う。	
		・地山掘削及び整形完了後は、監督員の確認を受ける。	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
	残土処理	・残土処理は、ダンプトラック〇tで行い、指定の処分地へ運搬・処理する。	
		・積込みの際は、過積載厳禁とする。また、車両走行時に土砂等が落ちない様にバックホウのバケットにて積込み土を押さえ運搬する。	
		・運搬時は法令等を遵守し、地元車両・一般車両を最優先させる。	
法面工	斜面整地	・法面の浮土・浮石及びその他の雑物等を取り除き、凹凸を人力にて整正する。その際、浮石等の落石による労務災害を防ぐため、上下作業と ならないよう作業計画を立て、KY活動等を実施し、作業員に周知を行う。	
	法面清掃	・ゆるんだ転石や法面の雑草・雑物・浮石等をロープ足場にて人力で除去し、十分清掃すると共に、湧水や軟弱地盤等の法面不良箇所が見られる 場合は、監督員に報告し指示を受ける。	
	ラス張り工	・法面清掃後、地山の凹凸に馴染みよくラス金網を張り、金網の重ね合わせは、10cm以上となるように行う。	
		・ラス金網が吹付により移動することがないように、主アンカー・補助アンカーで100㎡当たりの規定の本数以上で堅固に固定する。また、地山の凹凸により ラス金網に浮きが生じる場合は、補助アンカーピンを増し打ちし、金網が地山から離れないようにする。	
		・アンカーピンの打設はハンマーを用いて行い、岩盤等で容易に打設できない箇所については、電動ドリルを用いて所定の深度まで穿孔した後、ハンマーを 用いて打設する。	
		・スペーサーを使用する場合は、10㎡当たり〇個以上設置し、金網が吹付厚の中央付近になるよう、等間隔に配置する。	
		・法肩部については、地形に応じ施工位置を検討し、監督員と協議すると共に〇cm程度の巻き込みを行う。	
		・ラス金網設置完了後は、監督員の確認を受ける。また、湧水等が確認された時は監督員と協議し、指示を仰ぐ。	
	法枠工	・ラス張り完了後、法枠組み立て前に設置位置の芯出しを行う。(法面に向かって水平・垂直)	
		・枠部材を組み立てる際は、枠の形状寸法を確保し、吹付材料の荷重等によって部材の変形が生じないよう組み立てを行う。	
		・法枠の位置決定後、下部鉄筋を配筋し鉄筋のラップを設計値以上確保する。また、鉄筋の継手はずらして配筋し組み立ては結束線を用いて堅固に 行う。組み立て完了後、法枠材を設置し、上部鉄筋を配筋して組み立ては結束線を用いて堅固に行う。なお、組み立てに際して鉄筋の重ねは(〇mm) 以上を十分に確保する。	
		・法枠交点部に主アンカー、横梁に補助アンカーを打設する。なお、岩盤等の箇所については、電動ドリル等にて削孔し、アンカーを打設する。	
		・凹部には、補助網を設けて法枠を補強し、最後に水抜きパイプを設置する。	
		・鉄筋組み立て完了後は、枠内に養生シートを設置し、枠内がリバウンドで汚れないように養生する。	
		・法枠組み立て完了後、監督員の確認を受ける。	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		・搬入した材料(鋼材・セメント・洗砂等)は腐食・損傷等が生じないよう直接地面に保管することを避け、風雨にさらされないようシート等で覆い養生する。	
		・モルタルの吹付は、法面に直角に行い、法面の上部より順次下部へ吹付ける。吹付に際しては、他の構造物を汚さないように、また、はね返り材料は速やかに取り除いて不良箇所が生じないように施工する。	
		・吹付作業中に発生した飛散ロスは、エアージェットにより処理し、リバウンドロスによるサントポケットが生じないように注意して施工する。	
		・吹付作業中に降雨・降雪・強風の発生及び気温の著しい変動が見られる場合は、水セメント比の増大、材料の分離及び急激な乾燥収縮による亀裂の発生等の品質低下の恐れがある為、施工を速やかに中断する。	
	枠内吹付工	・種子の配合、材料等については、事前に品質証明及び配合計算書を提出し、監督員の承認を得る。	
		・材料の混合は、設計配合に基づいて各材料をタンク内に投入し、均一になるように十分攪拌をした後、吹付作業を行う。	
		・吹付時は、ノズルの先端部分を吹付面に対して直角になるように吹付け、ノズルマンに検尺棒を持たせて吹付厚を確認しながら吹付作業を行う。	
		・吹付作業の時期は、天候・気温を十分考慮して施工し、降雨・降雪及び強風の場合は作業を中止する。	
	モルタル吹付工	・使用材料及び現場配合表を監督員に提出し、承認を得た後に施工する。	
		・着手前に人力にて法面整形・清掃を行い、浮石・木の根等を除去し、出来るだけ法面に凹凸がないように仕上げる。	
		・ラス金網が吹付により移動することがないように、主アンカー・補助アンカーで100㎡当たりの規定の本数以上で堅固に固定する。その際、重ね合わせは○cm以上とし、法面の凸凹に合わせ浮いた金網がないように密着させて施工する。	
		・吹付に際しては、ノズルを法面に対してほぼ直角になるよう調節し、上部から順次下部へ吹付を行い、むらがないように均一に施工する。また、法肩部の吹付は、雨水などが浸透しないように地山に沿って巻き込んで施工する。	
		・休憩後及び翌日の吹付時には、打継面の泥土等吹付材の付着に害となるものを除去し、湿らせてから吹付を開始する。	
		・搬入した材料(鋼材・セメント・洗砂等)は腐食・損傷等が生じないよう直接地面に保管することを避け、風雨にさらされないようシート等で覆い養生する。	
		・モルタルの吹付は、法面に直角に行い、法面の上部より順次下部へ吹付ける。吹付に際しては、他の構造物を汚さないように、また、はね返り材料は速やかに取り除いて不良箇所が生じないように施工する。	
		・吹付作業中に発生した飛散ロスは、エアージェットにより処理し、リバウンドロスによるサントポケットが生じないように注意して施工する。	
		・吹付作業中に降雨・降雪・強風の発生及び気温の著しい変動が見られる場合は、水セメント比の増大、材料の分離及び急激な乾燥収縮による亀裂の発生等の品質低下の恐れがある為、施工を速やかに中断する。	
	植生基材吹付工	・種子の配合、材料等については、事前に品質証明及び配合計算書を提出し、監督員の承認を得る。	
		・着手前に人力にて法面整形・清掃を行い、浮石・木の根等を除去し、出来るだけ法面に凹凸がないように仕上げる。	
		・ラス金網が吹付により移動することがないように、主アンカー・補助アンカーで100㎡当たりの規定の本数以上で堅固に固定する。その際、重ね合わせは	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
		○cm以上とし、法面の凸凹に合わせ浮いた金網がないように密着させて施工する。	
		・材料の混合は、設計配合に基づいて各材料をタンク内に投入し、均一になるように十分攪拌をした後、吹付作業を行う。	
		・吹付に際しては、吹付距離及びノズルの角度を地盤の硬軟に応じて調節し、吹付により法面を荒らさないよう留意しながら著しい厚薄むらがないようにする。	
		・吹付に際し、他の構造物を汚さないよう十分注意を行い、リハウンド等は速やかに取り除く。	
		・吹付厚の確認は、ノズルマンにチェックピンを持たせ、随時厚みを確認しながら吹付作業を行う。	
		・地山に湧水がある場合は、監督員と協議し排水処理及び崩落防止などの対策を行う。	
		・吹付作業の時期は、天候・気温等を十分考慮して施工し、降雨・降雪の場合は作業を中止する。	
		・法面の作業中は、低い場所でも必ず安全帯を使用して作業を行う。	
	植生マット工	・着手前に法面の土壌硬度及び土壌試験を行い、その結果を監督員に提出する。	
		・施工する法面の浮石、法肩の木根等を除去し法面清掃を行う。	
		・法面上部より下部に向かって地山に密着させながら張り付け、アンカーピン・大頭釘等で地山に堅固に固定させる。	
	繊維ネット工	・種子の配合、材料等については、事前に品質証明及び配合計算書を提出し、監督員の承認を得る。	
		・着手前に人力にて法面整形・清掃を行い、浮石・木の根等を除去し、出来るだけ法面に凹凸がないように仕上げる。	
		・繊維ネットが吹付により移動することがないように、止めアンカー・大頭釘で100㎡当たりの規定の本数以上で堅固に固定する。その際、重ね合わせは	
		○cm以上とし、特に浮いたネットがないように法面の凹凸に合わせて密着させて施工する。	
		・材料の混合は、設計配合に基づいて各材料をタンク内に投入し、均一になるように十分攪拌をした後、吹付作業を行う。	
		・吹付に際しては、吹付距離及びノズルの角度を地盤の硬軟に応じて調節し、吹付により法面を荒らさないよう留意しながら著しい厚薄むらがないようにする。	
		・吹付に際し、他の構造物を汚さないよう十分注意を行い、リハウンド等は速やかに取り除く。	
		・吹付厚の確認は、ノズルマンにチェックピンを持たせ、随時厚みを確認しながら吹付作業を行う。	
		・地山に湧水がある場合は、監督員と協議し排水処理及び崩落防止などの対策を行う。	
		・吹付作業の時期は、天候・気温等を十分考慮して施工し、降雨・降雪の場合は作業を中止する。	
		・法面の作業中は、低い場所でも必ず安全帯を使用して作業を行う。	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
暗渠工	集水ボーリング	・設計図書に基づき、施工箇所及び削孔位置等を確認する。	
		・削孔方向、削孔角度は設計図書に基づき削孔機をセットし、削孔径φ○mmにて削孔を行う。	
		・削孔深度は、検尺棒を用いて測定・確認する。なお、削孔中に障害物が確認された場合、また、大きな地層の変化が認められた場合は、監督員に報告し、協議のうえ対処する。	
		・削孔完了後内管ロッドを引き抜く。なお、孔内清掃・洗浄を忘れずに行うとともに、保孔管の挿入は人力にて行い、挿入時に保孔管を損傷しないよう十分注意する。	
		・保孔管は設計図書で指定された物を使用し、事前に材料の承認を得る。	
		・保孔管挿入後、流末排水管を導水管に接続し、チーズ・キャップ等を用いて流末処理を行う。また、流末処理は、部材が外れることのないように確認して取り付ける。	
	暗渠排水管	・位置確認後、床掘はバックホウ○㎡で行う。	
		・床掘完了後、防砂板を敷き、コンクリート用砕石で埋戻しを行う。	
		・管を配置した後のフィルター材は、目詰まりや管の孔が詰まらないように注意しながら埋戻す。	
アンカー工	受圧板(鋼製)	・事前に監督員に承認を得た規格・寸法・形状で工場にて製作を行い、塗装前に工場にて監督員の立会検査を受ける。	
		・現場納入された受圧板の規格・寸法・形状が設計図書と相違がないか確認する。	
		・クレーンにて吊り上げ、所定の位置に据付を行い、アンカー定着工を行い完了とする。	
	受圧板 (コンクリート) 裏込めコンクリート 鉄筋加工組立	・裏込めコンクリートの型枠は合板を使用し、設計図書の形状寸法で設置する。なお、型枠の締付けにあたっては、ボルト・棒鋼を用いて堅固に締付ける。	
		・アンカー打設位置(受圧板中心)には、円形型枠を設置するため、アンカー打設位置は箱抜きをしておく。	
		・裏込めコンクリートは18-8-20(高炉)を使用し、コンクリートポンプ車により、型枠に衝撃を与えないよう打設する。	
		・打設は天端まで1回で行う。やむを得ず2層以上に分けて打設を行う場合は、上層のコンクリート打設は下層のコンクリートが硬化し始める前に行い、締固めには高周波バイブレーターを使用し、下層と上層が一体となるように、また、材料の分離が生じないように注意して施工する。	
		・コンクリート打設後の一定期間を、硬化に必要な温度及び湿度条件を保つため、コンクリート露出面を養生マット等で覆う。	
		・受圧板の鉄筋の加工及び組立は、設計図書の配筋図により施工する。	
		・鉄筋を組立てる前に鉄筋を清掃し、浮き錆や鉄筋の表面についた泥・油等、コンクリートの付着を害する恐れのあるものは除去する。	
		・鉄筋の組立は、コンクリート打設時に移動がないよう組立用鉄筋を用いて堅固に組立てる。	
		・鉄筋の重ね継手長は○mm以上とし、直径○mm以上のなまし鉄線で数箇所緊結し、継手を同一断面に集めないように組立てる。	
		・受圧板の配筋完了後は監督員の確認を受ける。	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 事 施 工 計 画 表

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
	型枠工	・受圧板の型枠は合板を使用し、設計図書の形状寸法で設置する。なお、型枠の締付けにあたっては、ボルト・棒鋼を用いて堅固に締付ける。	
		・受圧板の型枠で、アンカー打設位置(受圧板中心)には、円形型枠を設置する。	
	コンクリート工	・受圧板のコンクリートは24-8-20(普通)を使用し、コンクリートポンプ車により、鉄筋の配置や型枠を乱さないように注意して打設する。	
		・打設は天端まで1回で行う。やむを得ず2層以上に分けて打設を行う場合は、上層のコンクリート打設は下層のコンクリートが硬化し始める前に行い、締固め	
		には高周波バイブレーターを使用し、下層と上層が一体となるように、また、材料の分離が生じないように注意して施工する。	
		・コンクリート打設後の一定期間を、硬化に必要な温度及び湿度条件を保つため、コンクリート露出面を養生マット等で覆う。	
	足場工	・搬入した足場用部材のへこみ、曲がり、変形、さび及び腐食等の点検を行い、不良品は使用しない。	
		・作業床幅は4.5mとし、足場板を隙間なく敷き詰め、転落落下防止の為、手摺りを床面から90cm以上の位置に取り付け、床面から高さ35cm以上50cm	
		以下の位置に中棧を設け、高さ10cm以上の幅木を設ける。	
		・足場の組立は作業主任者の指示に従い行う。	
	削孔工	・アンカーの削孔にはパーカッションドリルを使用し、設計図書に示された削孔径・削孔方向・削孔角度で削孔し、長さ等を満足するように施工する。	
		・アンカーの打設角度は、勾配定規を使用して角度を保つように削孔する。	
		・削孔中において、異常な湧水及び孔内崩壊等が発生、または想定される場合は監督員に報告するとともに、その対策について指示を受ける。	
		・削孔完了後、孔内洗浄を行いケーシング内に残った削孔スライムを除去する。	
		・アンカー定着部が設計図書に示された地盤に達したことを削孔長、スライムにより確認する。	
		・孔内洗浄完了後、インナーを抜管し事前にスパーサー及びパッカー、注入パイプ等の取り付け加工を行ったアンカー体を挿入する。	
		・アンカー体挿入完了後、ケーシングを抜管する。	
	グラウト注入	・グラウトの配合は、事前に配合計画書を監督員に提出して承認を得る。	
		・グラウト材は水、混和剤、セメントの順に投入攪拌し、材料が分離しないように注意する。	
		・注入に先立ち、注入材の流動試験(フロー試験)を行い、その施工性及び品質を確認するとともに、グラウト材の供試体(テストピース)を採取する。	
		・注入は定着長部のフリクションパッカーから行い、エア抜きホースからグラウトが流出するのを確認後、加圧を行い0.5Mpa程度加圧し注入完了とする。	
		自由長部も同様に注入を行う。	
		・注入グラウトが所定の強度に達するのを確認後、適性試験及び確認試験を実施する。なお、事前に定着荷重を監督員と協議のうえ決定し、適正試験	
		及び確認試験の載荷計画書を作成し承認を得る。	
		・定着完了後、アンカーキャップを取り付けアンカーキャップ内に防錆剤を充填し、ケーシングにて密閉し完了とする。	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

工 事 施 工 計 画 表

工 種	種 別	施 工 計 画	摘 要
地質調査費	地質調査	・平坦地足場、傾斜地足場の仮設は、各地点ごとの地形状況に合わせて設置する。	
		・地質調査計画書を作成し、監督員に提出する。	
		・事前に位置確認を行った位置に、ボーリングマシンを設置し、削孔方向・削孔角度を確認のうえ、所定の深度まで削孔する。ボーリングの進行状況を監督員に報告する。	
		・調査の結果を整理し、コア・柱状図を監督員に提出する。	
基本試験費	基本試験	・足場の作業床幅は4.5mとし、足場板を隙間なく敷き詰め、転落落下防止の為、手摺りを床面から90cm以上の位置に取り付け、床面から高さ35cm以上50cm以下の位置で中棧を設け、高さ10cm以上の幅木を設ける。	
		・削孔は事前に位置確認を行った位置にパーカッションドリルを使用し、削孔方向・削孔角度を確認のうえ、所定の深度まで削孔する。	
		・削孔を行う際は、周囲の地盤を乱さないように注意し、削孔完了後は、孔内洗浄を行いスライム等を除去する。	
		・アンカー鋼材は〇〇〇を使用し、加工組立は設計図書の引抜き試験工構造図に従い組立てる。	
		・アンカー鋼材の挿入は人力で行い、アンカー鋼材・孔口が破損しないよう慎重に行う。	
		・グラウト材は水、混和剤、セメントを使用したセメントミルクとする。	
		・グラウト材の塩化物量、フロー値を測定する。	
		・パッカー注入後、定着長部の注入を行い、注入パイプにより定着長部の注入完了の確認を行う。	
		・グラウト材の供試体を採取し、材令3日で圧縮強度試験を実施し、所定の強度以上であることを確認する。	
		・基本試験施工前に引抜き試験計画書を作成し、監督員に提出する。	
		・圧縮強度を確認後、引抜き試験を実施する。	
		・引抜き試験の結果を整理し、報告書を監督員に提出する。	
治山付属施設工	治山用銘板	・監督員の指示箇所に、確実に固定し設置する。	

注 任意仮設工で特に重要と判断される場合には記載するものとし、仮設図は必要に応じ添付する。

安 全 管 理 計 画

項 目	安 全 管 理 計 画	摘 要
安全委員会の開催	・毎月第1〇曜日に半日以上時間を設けて安全会議を実施し、本工事の重点箇所及び作業箇所・作業方法の打合せ及び反省会と翌月の主要目標を協議し、災害事故防止に努める。 ・毎月1回〇日に開催し、その月の安全目標の達成状況、翌月の月間安全目標を設定する。また、緊急時等、必要に応じて随時召集し対策を検討する。 ・安全管理者を選出し、作業中の安全及び注意事項の指導を行う。	
発破作業上の注意	・火薬類を使用する場合は、監督員に使用計画書を提出し、現地に火薬庫等を設置する場合は、立ち入り防止柵・警報装置等を設置する。 ・爆破に際しては、過度の爆破を避け、既設構造物に損傷を与えるおそれがある場合は、防護施設を設ける。また、電気雷管を使用する場合は、爆破に先立って迷走電流の有無を調査し、迷走電流があるときは、その原因を取り除く。	
土運搬作業 (資材運搬作業)	・重機及び車両等は、作業開始前に保守点検を行う。掘削機械の作業半径内は立ち入り禁止とし、やむを得ず立ち入る場合は誘導員を配置する。 ・工事車両は最徐行し、公道上に駐車しないように指示徹底を行う。交通安全については、道路管理者及び地元関係者と連絡を密にし、安全対策に万全を期す。 ・資材の搬出入時は、必要に応じて交通誘導員を配置する。また、地元(第三者)車両を最優先とする。	
安全看板の設置	・工事名、工事箇所、工期等を記載した工事看板を工事搬入路の出入り口及び主要箇所に設置し、通行車両及び周辺住民に周知し、工事の安全に努める。 ・工事箇所において、現場事務所に安全旗を掲揚し、「立入禁止」・「ヘルメット着用」・「整理整頓」等の看板を必要な箇所に設置する。	安全旗 
安全標識の設置	・現場入口に、「工事案内板」・「協力お願い板」・「トラック出入口注意」及び「工事関係者以外立入禁止」等の標識を設置する。 ・現場内各所に、「安全第一」・「服装の端正」・「火気注意」・「足下注意」等の標識を掲示する。 ・現場事務所前には、各作業責任者一覧表及び毎月の安全目標等を掲示する。	
特別安全日の選定	・毎月1日(休日の場合は翌日)を特別安全日とし、社内役員による安全パトロールを実施する。 ・毎月第1〇曜日を特別安全日と定め、安全作業の心得、重機・機械類の点検整備を行い、災害防止に努める。 ・毎週末終業時、現場内の整理整頓、安全目標の反省会を行う。また、翌週の作業に向けて安全目標の再確認をし、安全意識の向上を図る。	
過積載の防止	・工事資材の運搬に当たり、過積載をしないように注意するとともに、生コン会社・砕石会社などへも指導を徹底する。	
土石流対策 (土石流に関する特記仕様書)	・豪雨、出水、その他台風等の発生があった場合は、気象予報などについて十分に注意を払い、降水量等を現場又は役場等を通じて把握し、作業員の安全を確保する。 ・現場作業に携わる者全てに、避難場所・避難合図(拡声器などによる)を周知徹底し、土石流災害の予防に努める。 ・現場事務所に災害対策用のブルーシート及び土のう袋等を常備しておく。	
その他	・床堀法面は、崩壊・落石などに注意し、安全ネット及びブルーシート等で覆い、作業の安全を確保する。 ・工事車両は集落付近、通学路などを通行するときには特に注意し、最徐行を徹底するよう指導する。	

1-(4)-1

調査及び記録(規則第575条の9)

作業場所から上流の溪流及びその周辺の状況

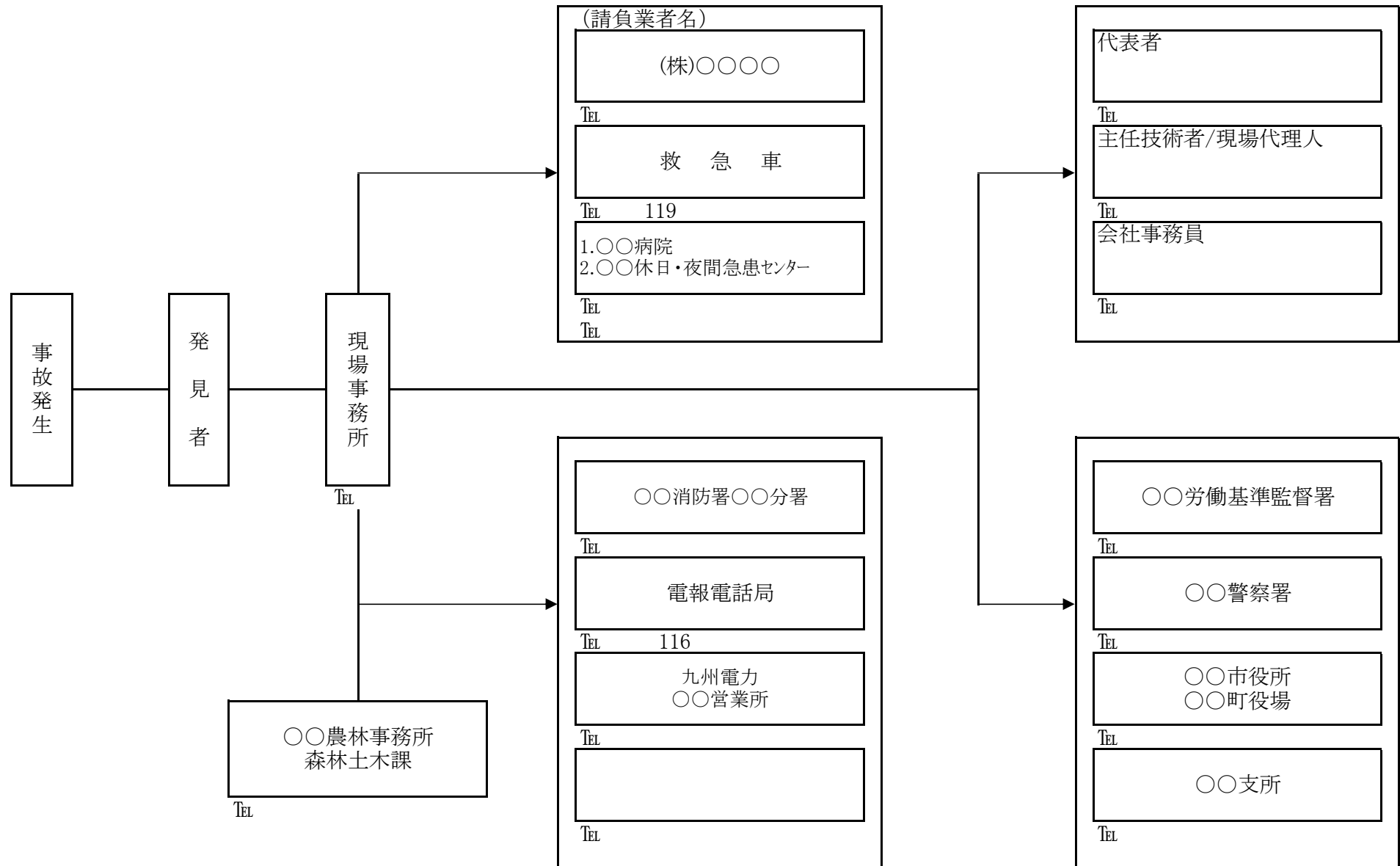
概 況	流 域 面 積	○. ○ha	溪床勾配(上流200m)	○○. ○%
	崩壊地の状況(有・無等)	無 有 (面積 . ha) 崩壊土砂(堆砂:流出)	流 域 の 形 状	
	土石流危険溪流の有無	有 無	崩壊土石流危険地区の有無	有 無
	過去の災害歴等			

※必要に応じ図面等を添付すること。

土石流による労働災害の防止に関する規定(規則第575条の10)

降 雨 量 の 把 握 の 方 法	降雨量の把握については、現場設置の雨量計により把握するものとする。
降 雨 及 び 地 震 が あ っ た 場 合 に 講 ず る 措 置	降雨があったことにより土石流が発生する恐れがあるときは、作業を中止して作業員を速やかに安全な場所に避難させる。
土石流の発生の前兆となる現象 を把握した場合に講ずる措置	上記降雨があった場合と同様に、土石流の前兆となる現象が見受けられたら速やかに作業を中止して作業員を安全な場所に避難させる。
土 石 流 が 発 生 し た 場 合 の 警 報 及 び 避 難 の 方 法	土石流が発生する恐れのある場合は、サイレン又は携帯用拡声器等により、作業員に速やかに退避するよう周知する。
避 難 訓 練 の 内 容 及 び 時 期	工事開始後遅滞なく1回及びその後6ヶ月以内毎に1回実施する。

※なお、上記記載については、「労働安全衛生規則の改正について(土石流による労働災害の防止関係)」を参照すること。

災 害 時 の 体 制

1-(6)

施 工 管 理 計 画

No.1

[illegible]

1-(6)

施 工 管 理 計 画

No.2

工種	種別	出来形管理		写真管理		品質管理		摘要
		管理基準(mm)	管理箇所	管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	
法面工	法砕工	法長10m未満 法長10m以上	-50 -100					
		幅	-10					
		高さ	-10					
		吹付中心間隔	±100					
		延長	-50					
		枠内モルタル吹付 法長	-50					
		枠内モルタル吹付 厚さ	-10					
		枠内モルタル吹付 延長	-50					
		枠内植生基材吹付 法長	-100					
		枠内植生基材吹付 厚さ	-10					
	枠内植生基材吹付 延長	-50						
	モルタル吹付工	法長	-50					
		厚さ	-10					
		延長	-50					

1-(6)

施 工 管 理 計 画

No.3

工種	種別	出来形管理		写真管理		品質管理		摘要
		管理基準(mm)	管理箇所	管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	
法面工	植生基材吹付工	法長	-100					
		厚さ	-10					
		延長	-50					
	植生マット工 繊維ネット工	法長	-100					
		延長	-50					
暗渠工	集水ボーリング	基準高	±100					
		削孔長	-0					
		削孔角	±2.5°					
		削孔展開角	±1.5°					
		保孔管挿入	-0					
	暗渠排水管	総延長	-0					
	山腹工	ロックボルト工	鋼材長	+100				
			-0					
削孔長			+100					
			-0					
削孔角			±2.5°					
軸間隔			±50					
		グラウト注入 全孔の注入実績						

1-(6)

施 工 管 理 計 画

No.4

工種	種別	出来形管理		写真管理		品質管理		摘要
		管理基準(mm)	管理箇所	管理基準	管理箇所	管理基準	管理箇所	
山腹工	アンカー工	受圧板 基準高 ± 100						
		受圧板 幅 -30						
		受圧板 高さ -30						
		受圧板 厚さ -20						
		受圧板 延長20m未満 -100 20m以上 -200						
		アンカー 自由長 -0						
		アンカー 定着長 -0						
		削孔長 +1.0% -0						
		削孔角 $\pm 2.5^{\circ}$						
		軸間隔 ± 100						
		テンドン挿入 +0						
		設計余長 -100						
		グラウト注入量 各孔の注入実績						